

比較文化演習 II

選択必修 2単位

濱田 陽

1. 授業の概要(ねらい)

文化学的アプローチにより、専門分野を深めた、また、複数領域を横断する、開かれた広い視野に立って日本文化を研究、発表する応用力を養う。他のゼミ・メンバーの研究テーマに親しみ、新たな日本文化研究と共に推進する。

今日、日本文化の研究領域とテーマは多岐に及ぶ。【本演習では、哲学、神話、宗教、思想、環境、教育、文学、歴史、言語、生活、風俗、芸術、芸能、サブカルチャー、観光、科学等の複数領域を視野に、死生観、樹木葬、幸福論、日本文化と恐怖、阿修羅像の魅力、日本の里山、日本人論、日本の記念日、日本の時計文化、日本文化にみるジエンダー、紙とデジタルの出版文化、無形文化遺産としての和食、発酵食品、喫茶文化、和菓子、日本酒と若者、ストリート・ファッショング、化粧、日本の色彩、日本語ルビの多様性、日本アニメーションの特徴、日本アイドルの魅力、群像的キャラクター、実写化、日本の科学技術、日本サッカーによる地域振興、日本庭園、日本の玄関、SNSとアイデンティティ、折り紙文化、招き猫、家紋の多様性、虫文化、都市伝説など、じつに多彩なテーマでの研究がなされてきている。】

後期は前期からさらに発展させた独創的研究テーマを推奨する。初顔合わせにより前期以来の研究テーマについて意見交換、前期末にすべてのゼミ・メンバーの意見を集約して決定した発表順、ゼミ運営方法等、研究発表のための再確認を行う。その後、自身の研究テーマについて、集めた情報・資料を選択・整理・分析・総合し、「研究レジュメ」(暫定版)を準備、発表する。

演習の全過程を通じ、ディスカッション・発表で寄せられた多彩な意見を検討・反映し、研究内容をさらに推敲・発展させた「研究レジュメ」(完成版)を作成、オンラインと印刷物で提出する。

2. 授業の到達目標

独創的な研究テーマに磨きをかけ、次年度演習・卒業論文・卒業後の展望等を見越した研究成果をまとめ、「研究レジュメ」(完成版)(具体的に、研究テーマ、キーワード、研究動機、研究仮説、研究事項、研究計画、情報・資料引用例、背景知識、参考文献・参考WEBサイト一覧、等についてまとめたもの)を完成させる。

3. 成績評価の方法および基準

演習参加度と個人発表(60%)、「研究レジュメ」(完成版)(40%)

4. 教科書・参考文献

参考文献

必要な資料はプリントで配布

5. 準備学修の内容

- 定期的に、図書館、インターネット、コロナ状況下で可能な範囲の実地調査を活用し、研究の軸・糧となる紙媒体情報(主として参考文献)、デジタル情報(参考文献・論文のデジタル版、参考WEBサイト、データベース等)、自己取得資料(自ら撮影した写真・動画、ノート、収集物等)を発掘、集積するよう工夫する。
- 発表のパワーポイント、レジュメ等の電子データは発表目前の日曜日23時59分までにLMSオンライン「掲示板」の専用フォーラムに送信、掲載する。
- パワーポイント、レジュメ等の印刷物(発表者・指導教授を含めて必要部数)は発表者が当日、準備する。
- LMSオンライン上で重要な情報はUPしていくため、対面授業の前後にLMSも確認すること。

6. その他履修上の注意事項

- LMSオンライン上で重要な情報はUPしていくため、対面授業の前後にLMSも確認すること。

7. 授業内容

- 【第1回】 初顔合わせ 研究発表のための事前確認
特別セッション「身体と精神から見る「日本」」
- 【第2回】 セッション I 暮らしの光と影 *「研究レジュメ」(暫定版)を準備、発表する。
- 【第3回】 セッション I 暮らしの光と影
- 【第4回】 セッション II 民族学と文学の邂逅
- 【第5回】 セッション II 民族学と文学の邂逅
- 【第6回】 セッション III 流行と精神の行方
- 【第7回】 セッション III 流行と精神の行方
- 【第8回】 セッション IV 妖怪異界社会問題
- 【第9回】 セッション IV 妖怪異界社会問題
- 【第10回】 セッション V 地域に潤いを…!
- 【第11回】 セッション V 地域に潤いを…!
- 【第12回】 セッション VI 人生を豊かにするもの
- 【第13回】 セッション VI 人生を豊かにするもの
- 【第14回】 特別セッション 「日本人」が生み出した表象文化とは?
「研究レジュメ」(完成版)を作成、提出する。
- 【第15回】 所定の日に発表できなかった履修者、また、各発表への応答を文書ファイル、音声データを準備して公開、学習する。 *LMSオンデマンド形式による授業、第7~13回(11月~12月)の間で実施